

広報

2010

おばま 5



《表紙》

御食国若狭おばま食文化館
1階のマリンデッキで行われ
た「足湯開き」。冬季休業のた
め、4カ月ぶりの再開に、招
かれた小浜第1保育園の園児
からは「あったか〜い」「気持
ちいい〜」と歓声が上がって
いました。

(4月8日)

【特集】 小学校の統合再編を考えよう

このまま児童が減り続けたら…

小学校の統合再編を考えよう

今、小学校を取り巻く環境は大きく変わってきています。それは、少子化によって小学校の統合再編を考える時期にさしかかっているからです。

なぜ、統合する必要があるか？

それにはさまざまな理由がありますが、最大の理由は、「児童数の減少」です。このまま児童の数が減り続けると数年後には、多くの小学校が複式学級になってしまいます。

どうして風にならざるのか？

市教育委員会では、今市内にある小学校を四校に統合するという案を軸に考えています。これまで、各地区に小学校があるのは当然だと思っ

り続けられ…

教育委員会では、統合再編についてのさまざまな実情を皆さんにお知らせして、地域で議論していただきたいと考えています。統合再編は、小学生や保育園児がいる家庭だけの問題ではありません。地域、社会全体で解決しなければならぬ重要な問題だと考えています。

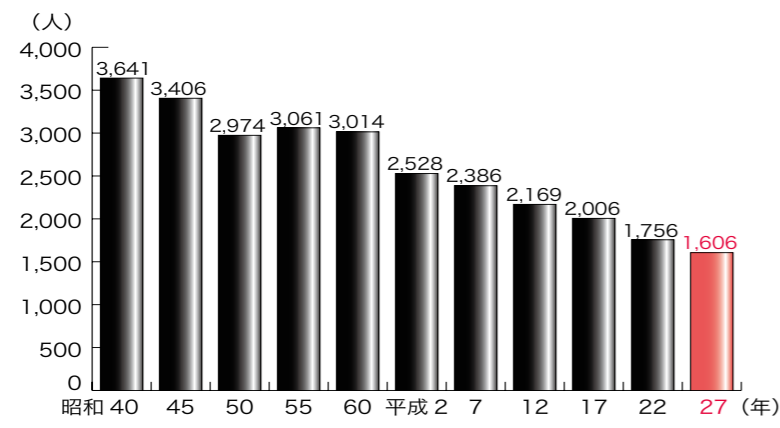
■問い合わせ 教育総務課 ☎内線422



小浜市の現状

児童の減少

現在の児童数は一、七五六人で昭和四十年の三、六四一人の半分以下となっています。平成二十七年度には、一五〇人減の一、六〇六人になる見込みで、少子化はさらに進んでいくと見込まれます。



各小学校の状況

現在、児童数が少ないのは、田烏と宮川、中名田の各小学校で、この三校は複式学級があります。また、今の一歳児が入学する平成二十七年の児童数を見ると、雲浜と西津、松永を除く各小学校が減少しています。特に、国富小学校と小浜小学校の減少が大きくなっています。国富小学校では、このままいくと同二十六年には複式学級が発生

学校名	平成22年度	平成27年度
小浜小学校	273人	185人
雲浜小学校	246人	271人
西津小学校	149人	201人
内外海小学校	68人	56人
田烏小学校	19人	9人
国富小学校	124人	69人
宮川小学校	47人	42人
松永小学校	65人	68人
遠敷小学校	223人	196人
今富小学校	318人	308人
口名田小学校	92人	92人
中名田小学校	50人	39人
加斗小学校	82人	70人
合計	1,756人	1,606人

《複式学級の編成基準》

1年生を含む場合は、2学年の合計が8人以下の場合に複式学級になります。1年生を含まない場合、2学年の合計が16人以下の場合に複式学級になります。複式学級のくくりは下の学年からくくります

老朽化が進む小学校

小浜と内外海を除く各小学校は、昭和三十年代から五十年代に建てられたもので、築後三十年以上となっています。

適正な規模

答申

平成十六年九月に市教育施設等研究委員会から「学級数が十二学級から十八学級程度が望ましい」と答申されています。これは一学年で二クラスから三クラス（一クラス二十五人から三十人程度）になることが適正ということですが。

理由

子どもたちのことを考えると、ある程度の人数で、クラス替えのできる環境がよいということです。クラスに二十五人から三十人いると、切磋琢磨し思考力が増すなどのメリット（次ページに掲載）があります。そして、一学年に二クラスあればクラス替えも可能です。クラス替えは、子どもたちに新たな人間関係を築くよい機会になると考えられます。また、一学年に二人の担任がいることで先生同士が協力し、よりよい教育を子どもたちに提供できると

四校にする統合案

四校試案

教育委員会では、市教育施設等研究委員会から「適正な小学校の規模」の答申を受け、平成十六年に「四校試案」を作成し、公表しました。四校試案とは、市内の十三小学校を四校に統合する（左表）というものです。

4校試案（平成16年9月22日作成）

区域	対象となる学校
東部地域	遠敷、下根来、松永、宮川、国富の各小学校
西部地域	小浜、加斗、雲浜（一部）の各小学校
南部地域	今富、口名田、中名田の各小学校
北部地域	西津、内外海、田烏、雲浜（一部）の各小学校

なぜ、この四校？

平成十六年の時点で、どの小学校でも十二クラスになるよう地理的な関係と児童数の見込みを含め均等に分けたためです。

将来的に考えると

切磋琢磨しながら学習するのに最適な「大規模学校」と十人前後の「小規模学校」の特徴を考えてみました（下記表）。これを見ると、一概にどちらがよいとは言えず、それぞれによいところ、悪いところがあることがわかります。しかし、このまま児童数が減少し続けると複式学級が次々と生まれてきます。複式学級では、二学年を一人の先生が同時に指導するということとなります。子どもたちにとっては、直接先生に見てもらえる時間が半分になってしまいます。今後、ますます少子化が進む中で、将来的なことを見据えると、統合再編の時期にさしかかってきたと言えます。

今後の方針

住民説明会

現在、四校試案を基に、想定されるさまざまな統合パターンを示し、地区の役員や学校関係者に小学校統合に関する説明会を実施しています。この説明会が終了次第、住民の皆さん全員を対象に説明会を実施していきたいと考えています。

どの学校から統合する

現在、田烏小学校と内外海小学校との統合、東部地域の小学校の統合を進めています。田烏小と内外海小では、同地区ということもあり、また田烏小の児童数が少ないこともあって早急に取り組む必要があります。また、東部地域の小学校は、遠敷小学校の老朽化が激しいため、統合を前提に新校舎の建設を検討しています。

課題と対応

統合再編問題は、四校試案によってすべてがうまくいくわけではありません。まず、多くの地区から小学校がなくなってしまうということがあります。また、地区を分けなければならぬ場合もあり、十分な理解が求められます。最も大切なのは、「子どものことを第一に考える」「住民の皆さんに理解していただく」と考え、統合再編問題を推進していきます。



中名田小学校と桜（本文と直接関係はありません）



（宮川地区）学校課題研究会

会長 松尾 茂嘉 さん（63歳・竹長）

学校課題研究会とは、小学校の統合問題を宮川地区としてどう方向付けするかということを目的に、平成20年11月に設置されました。わたしたちが結論を導くわけではありませんから、自分の主観を入れずに中立な立場でみんなの意見を取りまとめることを心がけています。

今の課題は、地区の人に統合の内容を知ってもらうことです。地区の人でも統合の話は知っていても、具体的な内容までは知りません。5月7日には市教育委員会が説明会を実施されますが、わたしたちも各区で人が集まるときに統合問題を話題にして、多くの人に関心を持ってもらいたいと考えているんですよ。

小学校の統合問題は、宮川地区にとって大きな問題です。みんなが納得できる結論というのは難しいかもしれませんが、みんながよく話し合ってもらい、「子どものため」「教育のため」「将来のため」につながるような結論が出たらいいなと思います。

よいところ

- 集団活動の中で切磋琢磨し、社会性や協調性、たくましさを育むことができる
- 体育では、野球やサッカーなどの団体競技ができる
- スクールバス通学になるため、不審者などの対策をとりやすい

- 一人当たりの活動の場が増える
- 違う学年の子どもと交流できる
- 子どもと先生、子ども同士が親密になる
- 先生は、子どもひとりひとりに目が届き、きめこまやかな指導ができる
- 保護者や地域社会との連携がとりやすい

大規模学校（25人〜30人）

- 一人当たりの活動の場が少ない
- 子ども間のトラブルが多くなる
- スクールバス通学になるため、徒歩通学ができなくなる
- 先生は、子どもひとりひとりを直接指導する機会が少ない
- 先生は、子どもひとりひとりの実態把握が難しい

小規模学校（10人前後）

- クラス替えがなく、友人関係の固定化や序列化を招く
- 切磋琢磨に乏しく、子どもの外的刺激が少ない
- 体育では、野球やサッカーなどの団体競技ができない
- 音楽活動や運動会、その他学校行事など、集団教育活動に制約を受ける

悪いところ

人事異動

市では、直面する行政課題や市民ニーズに適切に対応する組織体制を築くため、四月一日付けで組織機構の見直しと人事異動を行いました。主な内容は、次のとおりです。

①第二ステージとしての「食のまちづくり」

- 株式会社おばま観光局と連携し、農林水産業の振興と所得向上のため、農林水産課職員を一人増員
- 市庁舎にある食のまちづくり課を食文化館に移し、施策や事業を一体的に取り組めるよう体制を強化
- 小中学校で地場産給食などの食育を進めるため、市の負担で県教育委員会から指導主事を受け入れる
- ②環境施策の充実**
- 環境衛生課内の環境グループを環境・水保全グループに改め、水資源の保護や活用に取り組み部署を新設
- ③元気で長生き推進**
- 市民の検診受診率アップなどに取り組みため、五年ぶりに保健師一人を採用

④中心市街地の活性化

- 川端正寿（環境衛生課リサイクルプラザ次長・課長補佐）
- 産業部▼商工振興課GL 山下善嗣（税務課GL・主幹）▼商工振興課GL 井上満夫（経済産業省）▼観光交流課GL 橋本長一朗（観光交流課観光局創設準備室長・主幹）
- 教育委員会事務局▼教育総務課GL 伊須田尚（教育総務課GL・課長補佐）▼教育総務課GL 森田崇（福井県教育委員会）

■課長補佐

- 総務部▼総務課GL 善定末雄（保険健康課）▼税務課GL 東野克拓（財政課GL）▼税務課GL 今井俊彦（税務課）▼生活安全課GL 知見康代（監査委員事務局）
- 企画部▼企画課GL 檀野清隆（食のまちづくり課GL）▼企画課GL 宮川鶴綱（保険健康課GL）
- ▼情報課GL 松見一彦（上下水道課）▼財政課GL 津田実（税務課GL）
- 民生部▼社会福祉課GL 佐々木宏明（商工振興課）▼母と子の家児童デイサービスセンター園長 畑多佳子（遠敷保育園）▼子育て支援センター園長 小畑智恵（今富第一保育園長）▼西津保育園長 服部智子（宮川保育園長）▼宮川保育園長



辞令交付式で宣誓する赤崎泰文さん

- 中心市街地活性化計画の策定やまちづくりの推進に取り組みため、経済産業省職員を商工振興課に受け入れる
- ⑤課内室をグループへ移行**
- 組織の連携強化のため、課の中にある室をグループに移行した
- ⑥職員を削減**
- 引き続き職員数の削減に取り組み、前年度と比べ十二人減の三百十六人にした

- 大橋敏美（宮川保育園）▼松永保育園長 水本和子（小浜第一保育園）
- ▼口名田保育園長 古谷弥恵子（小浜幼稚園長）▼内外海児童センター園長 下島明子（松永保育園長）▼保険健康課GL 岩本秀子（保険健康課）▼市民課ボランティア・市民活動交流センター所長 地村奈美子（生活安全課）
- 産業部▼都市整備課GL 渡邊英明（生涯学習課・課長補佐）
- 会計課 石田悟司（図書館長補佐・課長補佐）

- 教育委員会事務局▼小浜幼稚園長 片山忍（小浜幼稚園）▼生涯学習課GL 西田雅志（市民課ボランティア・市民活動交流センター所長・課長補佐）▼体育課GL 津田修二（生活安全課GL）▼図書館長補佐 竹本雅之（都市整備課GL）

■企画主査

- 総務部▼総務課 河原弘和（上下水道課）▼税務課 岡寿郎（市民課）
- ▼税務課 赤崎智子（総務課）
- 民生部▼小浜第一保育園 小林美希（加斗保育園）▼内外海児童センター 河野美智江（中名田保育園）
- ▼保険健康課 安田宗子（文化遺産活用課）▼市民課 松葉美紀子（保険健康課）▼市民課 大西博司（上

異動は、部長級二人、部次長級六人、課長級八人を含む百二十四人です。（）内は旧任・旧所属。GLはグループリーダー。

■部長

- 総務部長 塩野喜一郎（民生部長）
- 民生部長 中西武司（監査委員事務局局長）

■部次長

- 総務部▼部次長兼総務課長事務取扱 江見敏（社会福祉課長）▼部次長兼税務課長事務取扱 木橋智明（保険健康課長）
- 企画部▼部次長兼情報課長事務取扱 芝田明和（情報課長）
- 会計管理者兼会計課長事務取扱 重田治樹（教育部部次長兼教育総務課長事務取扱）
- 議会事務局▼局長 西尾清順（企画課長）
- 監査委員事務局▼局長 品川憲治（市民課長）

■課長

- 企画部▼企画課長 山口雅巳（商工振興課企業誘致・雇用推進室長室長・主幹）▼食のまちづくり課長 小南弘幸（食のまちづくり課食文化館支配人・主幹）
- 産業部▼商工振興課 森下雅至（秘書課）▼農林水産課 森達郎（生涯学習課）▼都市整備課 上野正博（農林水産課）▼上下水道課 澤谷欣弘（生涯学習課）▼上下水道課 角野寛（総務課契約検査室）▼上下水道課 小浜浄化センター 下野仁己（農林水産課）
- 教育委員会事務局▼教育総務課 山名聡（福井県教育委員会）▼文化遺産活用課 百田典子（観光交流課）

■主査・主事

- 総務部▼秘書課 水野伸治（介護長寿課）▼総務課 小松隆次郎（福井県後期高齢者医療広域連合派遣）
- ▼総務課 前野美由紀（市民課）▼税務課 竹浦大輔（財政課）
- 企画部▼財政課 長谷川幸司（税務課）▼財政課 高鳥伸也（上下水道課）▼食のまちづくり課 速水誠智（情報課）
- 民生部▼社会福祉課 山本祐也（厚生労働省派遣）▼社会福祉課 井上恵理（食のまちづくり課）▼西津保育園 宇野泉（小浜第一保育園）▼国富保育園 池田裕子（西津保育園）▼宮川保育園 櫻井典子（雲浜保育園）▼遠敷保育園 清水美和（今富第二保育園）▼遠敷保育園 堂下

- 民生部▼社会福祉課長 松林吉博（企画課・主幹）▼保険健康課長 仲野郁夫（介護長寿課地域包括支援センター所長・主幹）▼環境衛生課長 吉村忠康（環境衛生課・主幹）▼市民課長 大岸美由紀（情報課・主幹）
- 教育委員会事務局▼教育総務課長 滝口克巳（総務課GL・主幹）▼体育課長 岩田拓美（商工振興課中心市街地活性化推進室長・主幹）

■主幹

- 総務部▼税務課GL 出口美千子（税務課GL・課長補佐）▼生活安全課GL 岡田泰治（社会福祉課GL・課長補佐）▼生活安全課GL 黒田誠司（福井県警察本部）
- 企画部▼情報課GL 内方政弘（企画課総合交通推進室長・主幹）▼食のまちづくり課GL 増田吉裕（保険健康課GL・主幹）
- 民生部▼社会福祉課GL 安倍満代（社会福祉課GL・課長補佐）▼介護長寿課地域包括支援センター所長 伊勢三恵子（保険健康課・課長補佐）▼環境衛生課GL 松井俊樹（財政課行政改革推進室長・主幹）▼環境衛生課クリーンセンター所長 下島潤一（体育課GL・主幹）▼環境衛生課リサイクルプラザ所長

- 友紀（口名田保育園）▼口名田保育園 政中真由（今富第一保育園）▼中名田保育園 田中良恵（内外海児童センター）▼加斗保育園 山田陽子（今富第一保育園）▼介護長寿課 重田敬之（農林水産課）▼介護長寿課地域包括支援センター 池田真美（社会福祉課）▼保険健康課 領家直美（総務課）▼保険健康課 竹田三奈（市民課）▼保険健康課 竹内彰朗（観光交流課）
- 産業部▼観光交流課 齋藤寛之（財政課）▼観光交流課 石田真由美（上下水道課）▼農林水産課 田中勝雄（職員組合派遣）▼農林水産課 北村宗之（都市整備課）▼都市整備課 松岡靖洋（福井県派遣）▼上下水道課 坂上和由（総務課）
- 監査委員事務局 重田典子（税務課）
- 教育委員会事務局▼教育総務課 松木浩代（社会福祉課少子化対策推進室）▼小浜幼稚園 西川圭子（国富保育園）▼小浜幼稚園 中島直子（今富第一保育園）▼生涯学習課 日比野伸彦（食のまちづくり課御食国若狭おばま食文化館）▼生涯学習課 藤田正徳（都市整備課）
- 技能労務職
- 民生部▼口名田保育園 中澤香代

平成22年度のいいとこ小浜づくり活動支援事業 「まちづくり」アイデアを大募集!

市では、ふるさと納税の一部を活用して、市民の自主的活動を促進し、市民参画によるわくわくできるまちづくりを進めるため、「いいとこ小浜づくり活動支援事業」を実施します。個性的で魅力的な活動の提案をお待ちしています。

■問い合わせ 企画課 ☎内線 342

☆対象の事業

公益的、地域貢献型まちづくり活動で、提案者自らが実施し、年度内に終了する事業

☆提案者

市内に在住または在学、勤務している個人。
または、市内で活動している団体

☆応募方法

いいとこ小浜づくり活動支援事業計画書を提出してください

☆選考

審査委員会で提案者からのプレゼンテーションをもとに選考。なお、提案件数が多いと第1次審査として書類審査を実施する場合があります

☆助成額

事業費の2分の1以内（上限50万円）

☆募集期間

5月6日(金)～31日(日)

- 美（今富第二保育園）▼内外海児童センター 高山タツエ（口名田保育園）
- 教育委員会事務局▼小浜小学校清掃員 四方義一（教育総務課清掃員）
- ▼雲浜小学校業務指導員 中嶋和枝（小浜第二中学校業務指導員）▼国富小学校業務指導員 岡本一枝（口名田小学校業務指導員）▼松永小学校業務指導員 池田美知栄（雲浜小学校業務指導員）▼口名田小学校業務指導員 森下温美（国富小学校業務指導員）▼小浜中学校業務指導員 西村芳子（松永小学校業務指導員）
- ▼小浜第二中学校業務指導員 寺井千寿子（小浜第二中学校業務指導員）
- ▼小浜第二中学校業務指導員 高田紀美江（小浜中学校業務指導員）
- 派遣
- ▼福井県 藤田卓弥（上下水道課）
- ▼福井県後期高齢者医療広域連合 石橋克浩（社会福祉課）
- 新採用
- ▼社会福祉課 赤崎泰文▼社会福祉課母と子の家児童デイサービスセンター 新谷智子▼小浜第一保育園 村松篤実▼保険健康課 松宮朋美▼農林水産課 上田崇博▼上下水道課 村上由佳

■退職

- ▼服部由幸（議事事務局長）▼田井克己（総務部長）▼竹村次夫（民生部部長）▼熊谷博司（会計管理者）▼栗原茂（総務部部長）▼吉岡澄夫（企画部部長）▼池上秀樹（総務部部長）▼杉本泰俊（図書館長）▼田中毅志（体育課長）▼岩本安正（クリーンセンター所長）▼六塚人（会計課上席課長補佐）▼吉岡恒子（社会福祉課課長補佐）▼多辺千恵子（西津保育園長）▼岩田順子（今富第二保育園長）▼地村裕子（口名田保育園長）▼木谷敬子（母と子の家児童デイサービスセンター園長）▼野瀬直枝（内外海児童センター園長）▼河原祐美（教育総務課）▼川上純夫（小浜ロッジ業務指導員）▼高鳥照子（内外海小学校業務指導員）▼厚生労働省復帰 中村加奈子（社会福祉課）
- ▼福井県教育委員会復帰 岡本武（教育総務課GL）

平成21年度のいいとこ小浜まちづくり支援事業

- ①フラダンスでつなごう世界平和、みんなで育もう笑顔と優しい心
▶オバマを勝手に応援する会
- ②どんだん小浜に来て見て食べて、御食国小浜の美味しいもん紹介事業▶御食国若狭倶楽部
- ③ウミガメでつながる学生と小浜市民との交流と小浜市の発展！
▶ふくい・うみがめサークル
- ④市の名勝、妙祐寺しだれ桜で元気になろう実行委員会
▶しだれ桜まつり実行委員会



③ウミガメ専門家の基調講演



④常設展示コーナーを設置

平成21年度ふるさと納税 ありがとうございます

38人から128万5千円の寄付をいただきました

- ◇出口源太 様（大阪府）3万円
- ◇西尾麻衣子 様（東京都）1万円
- ◇高谷信好 様（神奈川県）1万円
- ◇宮川芳光 様（京都府）1万円
- ◇太田佳男 様（東京都）17万5千円
- ◇高島賢 様（東京都）5万円
- ◇大熊武 様（千葉県）5万円
- ◇岡本渡 様（石川県）1万円
- ◇橋本嘉之 様（東京都）10万円
- ◇仲塚英一 様（埼玉県）10万円
- ◇北野史子 様（京都府）
- ◇小畑浩和 様（愛知県）
- ◇河合康子 様（京都府）
- ◇久保智史 様（京都府）
- ◇池上隆史 様（兵庫県）
- ◇山崎義信 様
- ◇吉村忠康 様
- ◇竹村次夫 様
- ◇匿名希望 20人

皆さまにいただきました寄付は、「いいとこ小浜づくり活動支援事業」に利用させていただきます

辞令交付式での市長訓示

最近、「地方分権」という言葉が、「地域主権」という言い方によって変わってきている。国にある権力を地域に分けるのではなく、地域が主権者となっていくという意味からこういう言葉に変わった。

昨年十一月に初めて国と地方との協議の場が持たれた。その中で鳩山総理から「これからの日本には、市民の自主的な活動を育て、真の意味での市民協働型社会を実現する必要がある。そのためにも、市民に一番近い自治体が主役になることが必要不可欠である」と断言された。

今までは国が統治し、国から県、市へものごとが降りてきていた。しかし、これからは市民から出発し、国へ上がっていくようになる。国へ上がっていくのは、自治体があるから。まず、自治体があるから。まず、自治体があるから。

い。そこで一番に考えなければならないことは「市民の目線」。「市民が第一である」ということ。そして、市民と接している中で、本当に市民のためになるのか疑問に感じたらすぐ改善に向け行動するという意識を常に持つてもらいたい。

本年度設置する観光局は、今まで成果があった食のまちづくりを、観光という切り口で第二ステージに進めるものである。それには、商工業、農林水産業、健康面への波及が重要となる。そして、市民と協働で運営していくという意味で、民間からも出資していただき、会社とさせていた。民間とともに観光で努力し、農林水産業をはじめとする地域経済を少しでも活性化させたいと考えている。それが我々の使命であることを認識し、協力をお願いしたい。